笑いと涙のコンサート

千春のひとりうた

元気で歌いまくる！

千春君、コンサートに行ってきましたよ。私、前の日からワクワクしちゃってなかなか寝つかれなかったのです、だから当日なんかもう大変ドキドキしちゃって、まるで私がステージで歌うような感じ…。

私の席は二階でした。だから双眼鏡で見ているとまるで目の前にいるみたいでしょっちゅう目があうのですゾー、そんなことで一人喜んでいました。

歌もとっても良かったですね。「お父さん」の歌うたってるとき、私もう涙ボロボロ顔はグシャグシャ…そしたら千春も泣いているんだモン、私、泣き声こらえるの必死でした。でも感激しました。あんなに感激したのは何年ぶりだろう？

「旅立ち」のとき、もう最後だっていったでしょう。私達、ワァーと立ちあがり前の方まで行きました。私なんか『千春、千春』って泣き叫んだんです。

厚生年金会館で勤務の男の人がいってたけど『一人で厚生年金会館を満員にしたの初めて見た』っていました、千春よかったね、なんかいつもの千春より何倍も大きく感じました。

千春のお父さんが作ってる新聞読みたいです、よければ送って下さい、楽しみにしています。

（札幌のM・Oさん）

★

千春さんのコンサートとてもよかったです。千春さん自身、成長したなあって思いました。生で聞くのは初めてでしたが、千春さんのあったかさ、親しみやすさ、が伝わってくるようなコンサートでした。行って良かったと思ってます。

「お父さん」という曲を聞いた時、千春さんがどんなにお父さんを大切に思ってるか、千春さんの中でお父さんの存在がどんなに大きいかってことが、ものすごく良くわかりました。

私は父と話はしないけれど、父が私をどんなに心配してくれてるか良くわかっているので、私、父のこと大好きですし大切に思っています。

（夕張のL・Sさん）

★

北海道厚生年金会館でコンサート見ました、千春の涙を流しながらの熱唱には感動はした、でもLPに入っている曲じゃなく、ふだんはきけないような千春のオリジナルをもっともっとやってほしかった。

友達とも言ってたんだけど『蛍』とか『白い花』とか『おどりましょう』とか…という歌をききたかった。それでも『おいで僕のそばに』を唄ってくれた時はすごくうれしかった。とにかくコンサートの成功おめでとうございます。

（札幌のK・Yさん）

★

まだコンサートの熱が残り興奮している私であります。LPをききながらコンサートのことを思い出しながらこの手紙を書いています、千春、おめでとう、札幌でのコンサートは大成功でしたネ（とちった所を抜きにして）。

「お父さん」歌っていた時、アッ声がかすれたなって思っていたら、千春急に泣いちゃうんだもん私までつられちゃったではないか

千春って、ほんとお父さん思いなんだネ、それだけ千春に対してよいお父さんだったからだよネ、すばらしい親子愛！

話は変りまして、ちょっと不満なんどを—「ためらい」をいつ歌ってくれるかって待っていたのに—。

それから歌詞にも不満をもったゾ

五郎くんのように足も長くないし

秀樹くんのようにカッコよくはないし

ひろみくんのようにかわいくもない

これはお世辞で言っているのでしょうか、もしそうなら決して文句はいいませんけど、千春兼五郎のファンの私にとっては許しておけないことなのです。最後にコンサートの時間が短かかったような気がするのですが—。

なんだかんだ言っても、普通の歌手とは違う親近感をもたせてくれるローカル歌手松山千春をいつまでも応援し続けることを、あのコンサートで誓ったのであります。

（札幌のR・Nさん）

★

八月八日厚生年金ホールで千春の旅立ちコンサートあったよね、私…とっても行きたかった、当時券もないから。私はただうちで成功することを祈っていました、だって…私にはそれしかできないもの。

千春くんのアタ・ヤン聞いてものすごくうれしくてなみだが出てとまらなかった、次の日、友達から電話で聞きました。

千春が目にいっぱいの涙をためて父さんを歌った事も…友達もかなり感激して泣いたそうです。電話口で私も涙が出てとまらなかった、そして行けなかった自分に無性にハラがたって、〃行きたかった〃今はただこの一言です。

（江別のM・Mさん）

★

松山千春の旅立ちコンサートを三列目で見て出ました、すばらしかったです、最高でした！厚生年金のホールが一杯になって、そして千春様にスポットライトが当たり、私達の目がひとつに千春様の方へ…。

もうなつと言いかわからないほど感激しました、笑いがあったり、私達にも伝わって来た千春様のお父様に対する思いの涙が…私も友達も泣いちゃいました、そんなステキなコンサートまだこれからいくつかのコンサートの成功を祈っています。

（札幌のU・Yさん）

★

八月十日に苫小牧市民会館で千春君のコンサート見ました。いつもラジオだったからすごーくよかった、前から五番目にすわってたんだけど千春君の顔がバッチリ見えて大感激！。

千春君の顔を初めて見たのは三月ころSTV・TV二時ワイドショーに出演した時で、その時は『あの人が〃旅立ち〃を歌ってるのか』って感じで別になんとも思わなかったの、それからラジオをきくようになって大ファンになってしまったのです。LPも買いましたよ！。

千春君に今日たまた手紙を出す気になったのは、「足寄より」を歌い終ったあとで住所は南三区っていったでしょう、私の仲よしのお姉さんが足寄へお嫁さんに行ったの、南一区だっていったから千春君の家の近くだなあと思ったの。〃ポリポリ〃知ってますよ、コンサートの時、知ってるよ！って叫ぼうと思ったけどチョッとはずかしかった。私も小さな町で育ったから千春君が足寄町から離れない気持がわかるような気がする、これからも足寄からがんばって下さいネ

（苫小牧のN・Aさん）

★

十日に苫小牧でのコンサート見て来たの、最高だったよ！ちはるって思ったとおりの人みたいで感激しちゃった！私、ちはるの生き方にとってもすばらしいものをみたような気がするナア

人を思いやる心と親を大切にする気持など、いまの私達に忘れてしまいがちな大事な人間の心をちはるはわかっているんだネ、私達が始めて「ちはるー」ってさけんじゃったのネ、そしたらちはるが「ヤー、苫小牧に来ても声がかかるなんて…うれしいですネ』なんて言ってくれて…。

ちはるは私達の声にすぐ答えてくれるでしょう、そこが好きです。コンサートで思ったんですけど、もう少し曲の紹介をしてほしいこと、あの唄すごくイイナアって思っても曲名わからないのでサン・ジャンにリクエストできないし私達困ります。

（苫小牧のS・Hさん）

★

帯広でのコンサート、成功でしたね。実際見て千春さんのことほんの少しでもわかったような気がします

千春さんはローカル歌手、ローカル歌手だって言ってるでしょ。私ネ千春さんに東京に出てもらいたかったんだよね。「旅立ち」あれほど大ヒットしたんだからこれからどんどん伸ばしてほしかった。東京に出て自分の力を試して欲しかった

確かに歌は北海道だけでも歌えるよね、でも今となっちゃもう千春ファンは全国的にいるんだから、北海道だけで歌い続けるなんてそんなことダメなんじゃないのー私はオ三月まで美幌に住んでいて「旅立ち」聞いたけど松山千春っていう人はてっきり東京に住んでいるものと思ってたの、だから足寄に今も住んでるなんて聞いてホントビックリしたわけ—。

今まで千春さんが足寄を離れない理由はいつまでもお父さんのそばにいてあげたい—ただそれだけの理由かと思ってたの、でも千春さんにとってお父さんがどれほど大切な人なのか—ということは十一日のコンサートで初めてわかったもんね、あの話すごくつらかったーホントに泣けちゃった。千春さんもつらかったのに一生懸命してくれて—ホントにありがとう千春さん。

（帯広のN・Kさん）

★

十二日の心のこもったコンサートどうもありがとう、とってもよかったですョ、感激しました。

中学から高校への千春はバスケット・ボールに夢中でした。まさか歌手になるとは

最初、幕があがって千春くんが見えたとき、私の想像していた、男、松山千春の容姿とツウトウかけはなれていたのです。

私は毎週、千春くんのアタック・ヤングを聞いているんだけど『べんきょーなるね—』とか『ごめなさい』とか〃千春語〃をよく使うしょ。だからどんなアホう（ごめんネー）なカオしているかと思ったのです。

な、なんと美しくてこれが千春…ほんとウソみたい

頭、千春が考えたのですかチャイニーズでニッカボッカー私としてはあんなアカヌケタ服、初めて見たのだけど、なかなかでしょ！。

私は千春くんがすごく身近な人に感じられるのです

全国に…世界？に有名になることはとてもいいことだと思うけど、いつまでも足寄のスーパースターでいて下さい、北海道の大地の上で歌っていて下さい。

（北見のS・Tさん）

竹田さんは千春の中に生きている

ちはる君、サン・ジャンききました、がんばって。私達に竹田さんのかわりはできませんでも、応援すること、と元気づけること、これだけはできます。

ちはる君にとって突然の出来事、私達、ちはる君を応援するものにとっても、とても悲しい突然の出来事だってそうでしょう、私達がちはる君というすばらしい人にめぐりあえて応援することができるのも竹田さんがいたから…。

でも竹田さんがいない今私達みんなが竹田さんのぶんまでもはる君を応援しなきゃ…。

ちはる君の心の中に竹田さんは生きています、そしてちはる君を知ることができた私達の心の中にも竹田さんはいます。

ちはる君が本当にスーパースターになることが竹田さんのねがいであり、私達みんなのねがいでもある筈です。

ちはる君、明日に向って歩きつづけて、つかれたらさびしくなったら、手をのばせばすぐそばに私達みんながちはる君をみまもっているのを忘れないで…。

ちはる君が歌いつづけるかぎり私達みんなちはる君といっしょです。ちはる君ひとりじゃないのよ、がんばって元気を出して—。

竹田さんはちはるの心のなかに永遠に生きつづけるはずよ、だからがんばって私達にすばらしい最高の笑顔を—それをみんながまってます。

（白糠のM・Oさん）

家族そろってテレビに出演のとき

昨年の八月二十九日に日本テレビの「あまから家族」の番組に出演で全国放送のさいのひと場面で右から次男の明人、長男の千春、長女の絵里子、歌手の[illegible]、司会のミヤコ蝶々、父の明、母の美代という家族そろってのテレビ出演でした。

この番組のテーマは「たった一人の新聞社」で、父が記事の取材から活字をひろって版組みをして印刷するまでを一人でやっている全国でも珍しい新聞社としてとりあげられたわけですが、これまでNHKやSTVで四回も紹介されたものですが、そのときはあまり問題にされなかった千春が一年もたたないあいだに北海道厚生年金会館を満員にさせるような歌手になろうとは—。

そのときはミヤコ蝶々にフォーク歌手をめざすよりもお父さんの新聞を継いだら—と千春は〃お説教〃された形でしたが、果してどちらがよかったのかです。